



2 学期を振り返る (その4) STEAM ガールズレクチャー

11月13日(木)4限目に「STEAM ガールズレクチャー」が開催されました。このイベントは、女性研究者や技術者等のロールモデルを知り、特に女子生徒に理学系・工学系を含めた幅広い進路選択を促すことをねらいとして実施しているものです。今年度は、佐賀大学シンクロトン光応用センター 准教授 水津理恵(すいづ りえ) 様をお招きして、「未来の研究者達へ」というタイトルで、ご自身の経験を基にご講演いただきました。大学では理学部化学科で主に有機化学について学ばれたそうですが、研究内容がどんどん変わって「今は、大学で物理を教えています。」と笑っておっしゃっていました。先生ご自身が、まさしく「リケジョ」のロールモデルというわけですが、研究のことや高校生活についてのお話は大変親しみやすく、研究職を目指している人にも、そうでない人にも、改めて自分のキャリアパスについて考えるきっかけになりました。子育てしながら研究を続けられたお話も、今はピンと来ないけれど、将来何かの拍子にふと思い出して勇気や元気をもらうかもしれません。もちろん男女関係なく、です。

世の中では、女性の管理職比率の数値目標を掲げたり、女性活躍推進の取組が進められていますが、水津先生は、女性を優遇することと多様性の実現は必ずしも同義ではないこと、性別ではなく、能力を公平に評価する社会を目指すことが、ダイバーシティ推進の本質であることを伝えてくださいました。「女性が男性と同じことを出来なくてもいいんですよ。」「一人でできることは限られているのでジェンダー関係なく協力することで協奏効果が生まれます。」納得の言葉です。

最後に、化学分野における初の女性博士である「黒田チカ」博士を紹介していただきました。大学で女性が学ぶことが当たり前ではなかった時代に、東北帝国大学(現在の東北大学)に進学され、専門を極められた女性です。今は普通に与えられている権利や選択も、誰かが、どこかの時点で、勇気をもって挑戦してくれた結果であることを忘れないで大切にしたいですね。

ちなみに黒田チカ博士は、佐賀県佐賀市のご出身です。



講演会の様子